

ナシの立木仕立てと計画的密植栽培について

(第1報) 早期成園化について

浜地文雄・森田 彰・三田正彦・\*星野正和

(福岡県園芸試験場)

HAMACHI, F., MORITA, A., SANDA, M. and HOSHINO, M.

On the Planned Close-Planting Culture of the Standard Training Japanese Pears

(1) On the early increase of yield

防風を完備して、立木仕立てによるナシ栽培の可否を検討すると共に、早期成園化をはかるため計画的密植栽培を行い、収量をおとさず間伐して、収量の増大と盛果期間の延長をはかる方法を究明するため1956年から試験を行っている。今回は早期収量・果実の肥大について報告する。

材料及び方法

品種は新世紀・長十郎・二十世紀を用い、10a当り

当初、立木園48本植、棚園(間伐予定樹は立木・並木植)24本植とし、樹冠の拡大に伴ない逐次間伐して最終には12本植とする。

防風は竹製防風垣(高さ4m・密閉度30%)及び防風樹(ヒノキ、マキ、メタセコイア)で行った。

試験結果

1) 収量の推移(第1表)

第1表 ナシの立木仕立てと計画的密植栽培の果実収量の推移(kg/10a)

樹形	品種	樹別	西暦		1960年	1961	1962	1963	1964	1965	1966	累年計
			3年	4	5	6	7	8	9			
			樹令	新世紀	長十郎	二十世紀						
			樹別	永	久	樹						
			第1次	間伐	樹							
			第2次	計	計							
			計	計	計							
立木	新世紀	永	12	66	196	563	565	305	915	1,044	3,654	24.3
		久	24	144	525	1,228	1,283	561	1,776	2,123	7,640	50.8
		樹	12	47	272	519	656	261	931	1,067	3,753	24.9
立木	長十郎	永	12	29	243	589	589	279	891	790	3,410	25.1
		久	24	55	480	1,257	1,077	675	1,859	1,694	7,097	52.1
		樹	12	16	208	629	462	263	801	730	3,109	22.8
立木 (並木)	二十世紀	永	12		88	249	333	127	616	693	2,106	48.4
		久	12		103	194	369	117	556	903	2,242	51.6
		樹	24		191	443	702	244	1,172	1,596	4,348	100.0
棚(盃状) (立木)	二十世紀	永	12		126	197	448	89	390	676	1,926	75.8
		久	12		92	23	413	88	390	616	2,442	24.2
		樹	24		218	220	861	177	390	676	2,542	100.0

果実は3年目から結実し年次毎に増加したが、1963年は異常天候で収量は伸びなかつた。立木仕立てと棚仕立ての1本当り収量(二十世紀)は、植付け5年までは棚仕立ての方がわずかに多いが、以後は立木仕立ての方が多くなつた。立木仕立て樹の収量が5年まで少ないのは、樹冠容積は大きい、樹冠拡大枝が多く結果部が少ないからである。

立木園の収量は各品種とも栽植本数に比例し、計画密植によつて早期収量が多く、10a当り48本植の新世紀は5年目=2.31t、8年目3.62t、9年目=4.23tに達し、早期成園化された。

棚園の間伐予定樹は5年で大枝の間引、7年で伐

截、したがつて棚園での盃状・立木(並木植)の計画的密植栽培は早期収量増加にあまり効果はなかつた。

2.) 果実の肥大

發育枝の発生した短果枝の果実は、發育枝のない果実より大きい。立木仕立て樹は發育枝の発生が少なく、果実が若干小さいので發育枝の発生を促すせん定や肥培管理が必要と考えられる。

3) 風害による落果

立木仕立ての落果は、計画密植による樹相互の防風効果或は樹枝揺れによつて、比較的少なく、棚仕立てよりわずかに多い程度であつた。

\* 茨城県農林部